

第3回 武雄市短期経済観測調査（たけお短観）の結果について

下記のとおり「第3回武雄市短期経済観測調査（たけお短観）」を実施し、結果を取りまとめましたので、お知らせします。

【武雄市短期経済観測調査（たけお短観）結果】

平成22年9月調査

	調査数	前回調査		今回調査		
		A 現況 (H22. 6)	見通し (H22. 7-9)	B 現況 (H22. 9)	B-A 前回現況 との対比	見通し (H22. 10-12)
総 合	100	-42	+1	-32	+10	+3
農業	10	-60	±0	-10	+50	+10
建設業	11	-45	+9	±0	+45	+27
製造業	11	-27	-27	-55	-28	+9
卸売・小売業	25	-44	+16	-54	-10	-17
観光業	10	-40	+60	-30	+10	+20
飲食業	10	-40	+10	-20	+20	+20
サービス業	23	-39	-35	-31	+8	-8

結果のポイント

総合景況感は、依然としてDI値マイナス（32）であるが、前回6月調査値（-42）からするとプラス10となり、景況感が改善した。

- 調査目的 本市の経済動向をよりの確に把握するため
- 調査対象 武雄市内事業所 100箇所（業種別内訳は上表参照）
- 調査時期 年4回（3月、6月、9月、12月）
- 調査方法 電話による聴き取り
- 調査内容
 - （1）現在の景況感：良い、普通、悪いのいずれかを回答
 - （2）3ヵ月後の見通し：良くなる、変わらない、悪くなるのいずれかを回答
- 集計方法
 - （1）現在の景況感（2）3ヵ月後の見通しについて、それぞれ回答数の構成比を求めた上で「良い（良くなる）」の構成比から「悪い」「悪くなる」の構成比を引いて「現況DI」、「見通しDI」として指標化しました。
 - 例えば、現在の景況感の「良い」が10%、「普通」が40%、「悪い」が50%の場合は、-40となります。
 - 「DI」（Defusion Index、デフュージョン・インデックス）は、企業や業界の景況感などを数値化した指標のことで、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」（日銀短観）などで用いられています。